

事例9 思考展開シート

(1) 疾病や薬の副作用等の影響は考えられますか？

・身体の自由が思うようにならない苛立ち、「手がしびれて思うように動かん！」

【質問】

手がしびれるのは何か具体的に疾患や薬が影響していると考えられますか？

【回答】

脳梗塞後遺症が原因ではないか。(医師の意見)

【質問】

思うように動かないというのは、不安や心配などの心理的な表れなのでしょうか？

【回答】

心理的な影響は大きいと思う。現実、重たい鍋も持てている。自分が上手くできないときの言い訳に聞こえるときもある。

(2) 身体的痛み、便秘・不眠・空腹等による苦痛の影響は考えられますか？

・身体の自由が思うようにならない苛立ち。
 ・「手がしびれて思うように動かん！」
 ・巻き爪の痛み。
 ・面会の家族に、「爪が痛いよねえ。」
 ・空腹感。直接的な訴えなどはないが、試食というかたちで職員に求めることがある。

【質問】

具体的に、本人はどんな言葉で、「試食」を求めているのですか？また、実際に本人は、「試食」または「味見」という感覚でそのような言動や行為が見られるのでしょうか？

【回答】

自分で直接手にとって食べる。調理主任の責任感から食べ物を見ると、「味を見て確認する」習慣があるのかもしれない。ひよっとすると、ただの空腹を満たすだけの行為かもしれないが、スタッフへは「試食」と言う。

(3) 悲しみ・怒り・寂しさ等の精神的苦痛、また本人の性格等の影響は考えられますか？

・仕事に対して厳しさを求める、他者に対する苛立ち、「何でこんなところに寝ているの！ほら、起きて、仕事が残っているんだよ、あんたは卵焼きが得意だから！」
 ・隣席の人に「これは何？」と聞かれ、「自分で考えて、自分でしっかり覚えておかないと。」
 ・ソファでうとうとしている人に、「さっさとしないといけないよ、私の代わりにしてよ！」と言ってさっさと自室に戻る。

【質問】本人のこうした苛立ちや指示、命令等は本人のどんな気分、心持ちの表れだと思いますか？

【回答】自分の思い通りにならないことは、直接表さないと気がすまない。他人にも自分にも厳しい。

(5) 家族・介護者など周囲からの過剰、あるいは少なすぎる関わりの影響は考えられますか？

・子どもたちや孫がたびたび面会に来て、自室で楽しそうに話をする。帰るときは、「気をつけてねー。」と玄関まで見送ることもあり、帰宅願望等は見られない。

【質問】家族は本人の、「調理へのこだわり」についてどのように考えていますか？

【回答】「本人の思うようにさせてほしい。」「こういう母ですから、私たちも何も言えない。」

・台所仕事に職員が、「座ってされませんか。」と声をかけると、「仕事だからね。」と立ったままで続ける。

【質問】本当に本人が疲れた時、本人はどのように言ったり、したりしますか？

【回答】痛みの訴え、で表現。「爪が当たって痛い。」「腰が痛い。足が痛い。」

・職員の水分補給の声かけに、「分かってる！」と強い口調で返すときがある。

・訪問診療や受診のときは医師に、「元気ですよ。」「ばりばり元気ですよ。」などとこやかに笑って返事をする。

(8) 生活歴・価値観等に基づいた暮らし方と、現状とのズレによる影響は考えられますか？

・長年勤めた調理主任の誇りと現実のズレ。
 ・大学の実習生に自己紹介で、「ここへ勤めて 30 年です。調理師の国家資格を持っています。1・2番で試験も合格しました。ひとつでも覚えて帰ってください。」「女は、昔はお料理と裁縫ができないとお嫁に行けなかったんだよ。」「食事は栄養のバランスが大事ですからね！」と諭すように話される。気分のいいときは、「今日も1日よく働いた。」と手を振りながらさっさと自室へ戻られる。

【質問】本人にとって調理主任だったことはどんな感情をもたらしているのでしょうか？誇り、自信、使命感、責任感、etc・・・。

また、その感情は今後の本人にとってどんな利益または不利益をもたらすと考えますか？

【回答】誇り、自信、使命感、責任感などすべての感情。生きる意欲の継続。今後、他人との協調性の無さからトラブルに発展の可能性あり。

(4) 音・光・味・臭い・寒暖等感覚的な苦痛を与える刺激の影響は考えられますか？

・入居当時(3年程前)は環境の変化に多少の戸惑いがみられたが、現在では感覚的な苦痛を与える刺激の影響はあまり考えられない。

【質問】

本人の特に味覚や嗅覚、触覚などの状況はどのような状況、感覚だと思われますか？(味、臭い、手指の感覚など)

【回答】

・味覚OK。ただし、視覚に頼りがち。
 ・嗅覚は？本人からの言動はあまりない。(いいも悪いも。)
 ・触覚は、調理のときに指を使って確かめることがよくあるが、スタッフが後で確かめると、結構熱いときがある。この行為自体は調理主任時代の習慣かもしれないが、確かなことは不明。

本人の言葉や状態
 ワークシートC- に書いた、本人の言葉や行動を書き出し、関連のありそうな情報を整理してみましょう。

・「食材が足りない！」と言いながら、何度も電話をする。
 ・メニュー表を見ながら、自らすべての下ごしらえをしようとする。
 ・スタッフの手洗いの声かけに、「国家資格を持ってるの！そんなことはちゃんと分かってる！」と怒った口調で言う。
 ・他の入居者に、「そうじゃない、昨日も教えたでしょ！何でそんなことも分からないの！」と怒りながら言うが、自分は言うだけ言ってその場から離れてしまう。

(7) 要望・障害程度・能力の発揮と、アクティビティー(活動)とのズレによる影響は考えられますか？

・自分で思うようにできない苛立ちや他者が思うように動いてくれない苛々感。

【質問】本人のいら立ちに対して他の利用者とはどんな感情を持っているのでしょうか？また、職員はどんな感情で関わっていますか？

【回答】「またそんなこと言って。」と言うことはあるが、受け入れている。「昔はこのくらいのことはすぐできたのに。」と言ったり、レクリエーションで最初に上手くできないと、「こんなことしている場合じゃない、仕事、仕事。」と言って席を離れる。

【質問】本人が調理に逃げないための何か工夫は考えられますか？

【回答】外出機会(食材買出し等)の増加、庭での野菜づくり、など。食材の注文の電話に相手が出ないと、「また居ないんだから。」と苛々した様子。「洗濯ものを一緒にたたみませんか。」との声かけに、「自分の事は自分でします！」と不機嫌になる。

(6) 障害程度・能力の発揮に対して、住まい・器具・物品等物的環境による影響は考えられますか？

・台所の冷蔵庫を何度も開け閉めして中の食材を見て、「これだけで足りるの。職員の分も作るんでしょ。もっと大きな冷蔵庫でもちゃんと管理してきたのに。」「冷蔵庫に何も入っていないのよね。1週間分注文してあるのに、いつからいつまでのかわからないのよね。」

【質問】

本人は以前の職場での状況との差異に混乱しているのでしょうか？あるいは本人なりに今の生活場所で折り合いをつけようとしているのでしょうか？

【回答】

・「ここもこうあればいいのに・・・。」と言うことがあるので、本人なりに今の生活場所で折り合いをつけようとしていると思う。が、時々以前の職場の状況と混乱する。
 ・注文票と検食簿に対して、「昔はもっとちゃんとしたものだったのに。」「物干し竿は竹じゃないといけません！」